

## 月世界への道

月は地球に最も近い天体です。地球以外で人類が初めて降り立った天体でもあり、もっとも多くの探査機が送り込まれた天体でもあります。

1969年7月、アポロ11号が月に着陸成功し、人類は初めて地球以外の天体に足を踏み出しました。月は空気も水もなく、人類が生活するにはとても厳しい環境でした。

アポロ計画以降は、無人の探査機が多く送り込まれます。2003年に月周回軌道に入った「かぐや」は、月の全球の詳細な地形図を完成させました。2024年1月、月着陸探査機SLIMが日本の探査機としては初めての月面着陸に成功し、着陸地点周辺の岩石の性質を詳しく調べました。

人類の月探査の歴史と、月探査や月を拠点にした宇宙開発の展望をご紹介します。



担当：飯山 青海(学芸員)



私たちは「宇宙」を作っている会社です。

— プラネタリウム生誕100周年 —

最新の光学・デジタル プラネタリウム機器の開発・製造から、独自の番組企画・制作・運営ノウハウに至るまで、プラネタリウムという“スペース”の可能性を追求し続けてまいります。

**コニカミノルタ プラネタリウム株式会社**

本社・東京事業所 〒170-8630 東京都豊島区東池袋3-1-3 TEL (03) 5985-1711  
大阪事業所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 TEL (06) 6110-0570  
東海事業所 〒442-8558 愛知県豊川市金屋西町1-8 TEL (0533) 89-3570  
URL: <http://www.konicaminolta.jp/planetarium/>

画像：大阪市立科学館

## ブラックホールを見た日～人類100年の挑戦～

「ブラックホールを見た日～人類100年の挑戦～」が再登場！

2019年4月、イベント・ホライズン・テレスコープEHTがおとめ座の巨大楕円銀河M87の中心ブラックホールの直接撮影に成功したというニュースが世界同時に発表され、衝撃を与えました。そして2022年5月には、私たちが住んでいる天の川銀河の中心ブラックホール「いて座A\*」の画像化にも、ついに成功したと発表しています。

EHTは200名を超える世界中の科学者たちが、手を携えて挑戦した国際プロジェクトです(月刊うちゅう2021年3月号のメイン記事)。

光を出さず、真っ黒で見えないはずのブラックホールをどうやって撮影したのか。

EHTは、ブラックホールを直接撮影するため世界8つの電波望遠鏡を連動させ、地球規模の仮想的なアンテナを構築しました。成功に至るまでの道のりを、EHT日本チームを率いた国立天文台の本間希樹先生監修のもと、迫力の映像で振り返ります。

ナレーションは「進撃の巨人」エレン・イェーガー役等、数多くのキャラクターを演じていらっしゃる梶裕貴さんです。

さわやかな声があなただをブラックホールの真の姿に誘います。



©ブラックホールを見た日製作委員会

企画・制作:石坂 千春(学芸員)、飯山 青海(学芸員)

星の輝きで伝えることがある  
五藤光学研究所 ■ 全天候デジタル配給作品



GOTO

MMX  
火星衛星探査計画

監督・脚本:上坂 浩光 ナレーター:中川 慶一 音楽:酒井 義久 監修:白井 寛裕/梶 裕貴  
協力:JAXA 火星衛星探査機プロジェクトチーム 制作・著作:MMX製作委員会

© LIVE / 五藤光学研究所 / 科学技術振興財団 / 神戸市立青少年科学館 / ALLSTAFF CO.,LTD.